

宿場町の面影

藤川宿の主要な施設は中町に集中しており、かつてはここがまちの中心であったことが分かります。

五海道其外延絵図 東海道 巻第7

高札場跡



幕府の法令や禁令が示された高札場。江戸時代は情報を得るための掲示板でした。藤川宿資料館には、1711年当時の高札が展示されています。

問屋場跡



2 藤川宿問屋場イメージ

かつて問屋場があった場所の建物は、戦後までは江戸時代の建物を使い、住宅とガウ紡工場として使用されていましたが、昭和27年に改築されました。

写真・図提供

1 斎郷三千佳氏 2 小林奈翁彦氏

藤川宿資料館（脇本陣跡）



1 藤川村役場として使われていた頃の脇本陣跡

宿場町として栄えた藤川宿を後世に伝え、くらしのなかで文化財に親しむことができるよう展示・保管をする場として、平成元年に建てられました。

入口の棟門は、江戸時代を物語る貴重な遺構です。

街道

境界

宿場（まち）

街道



十王堂



西棒鼻公園



関山神社常夜燈



藤川宿資料館（脇本陣跡）



本陣跡



銭屋



米屋



旅籠つる屋跡



問屋場跡



津島神社常夜燈



秋葉山常夜燈



東棒鼻公園



町家

町家にみる意匠デザイン

知れば知るほど機能的であり、美しくもある「用・強・美」のデザイン。町家はその土地の気候風土や素材など、暮らしを通じて生まれたデザインの宝庫です。

間口が狭く奥行きの深い「うなぎの寝床」と呼ばれる敷地に建てられた町家は、限られた空間の中で「内」と「外」を巧みに分けながらもつなぎ、採光や防犯など機能と美しさを兼ね備えた「通り庭」や「格子」などの独特のデザインをつくりあげてきました。



町家の意匠デザイン

町家のファサード（正面外観）のデザイン要素

屋根	きりつま かわらぶき 切妻、瓦葺①
入口	ひらい 平入り
階数	ひら や ちゅうにかい 平屋、中二階
窓	きこうし むしこまど でこうし 木格子②、虫籠窓③、出格子
壁	いたばり しっくい かべ うだつ 板張④、漆喰⑤、なまこ壁、卯建⑥
その他	こまど しょうぎ 駒止め、ぱったり床机



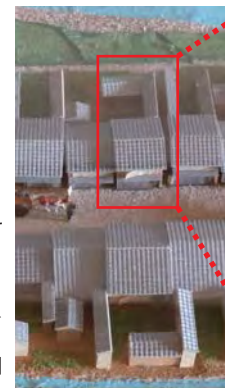
池田通都作「昭和東海道五十三次之内 藤川 街道沿家（部分）」
(1931年) 倉敷市立美術館蔵

くらしの知恵

現代の店舗付併用住宅といえる「町家」の基本的な間取りは、表から裏口まで続く土間の「通り庭」に沿って、「ミセ（店）」「ダイドコ（台所）」「オク（奥・座敷）」等の部屋が並ぶ「三ツ間取り」が一般的です。「通り庭」は通路であり、風の通り道でもありました。

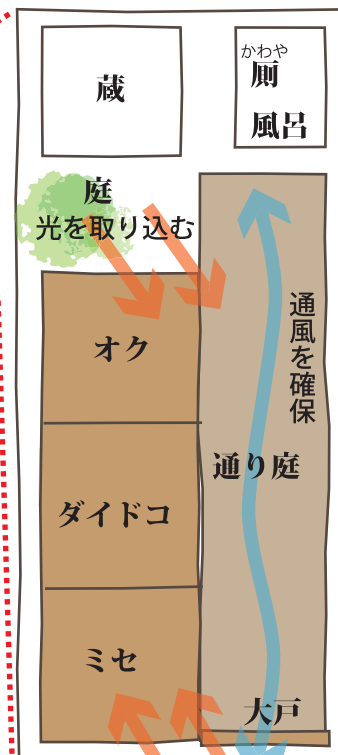
敷地の奥には、大切な蔵や厠（かわや・便所）・風呂などの生活空間が配置されていました。

町家は街道（大名行列）を見下ろさないよう高さを抑えながらも、内部空間の有効利用のために天井の低い二階を設けた中二階建てが一般的です。



うなぎの寝床

昔は街道に面する間口の広さに応じて税金が課せられたため、間口が狭く奥行きが深い短冊形の町割りがあった。



（三ツ間取り） 光を取り込むプライベートの確保（格子）

「用」を満たし、「強」く、「美」しい

格子

左ページ
写真②

木材などを直角に交差させて組んだものです。昼間は内部から外部がよく見えますが、外部から内部はよく見えません。格子は防犯と目隠しの役割があります。

虫籠窓

左ページ
写真③

防火のために格子をしっくいぬり籠めたものです。

卯建

左ページ
写真⑥

防火用の袖壁ともいわれますが、意匠的な意味もあります。

宿場の風情を今に伝える町家

「銭屋」 平岡家住宅



「銭屋（ぜにや）」は、一八
一八〇三〇年頃に建てられ
たと考えられています。
ミセの間を分割したり、
格子を新しいものにするな
ど建築当時から若干手が加
えられています。中二階
の両端にある卯建など、江
戸時代の町家の風情を今に
伝えています。



「米屋」 野村家住宅



「米屋（こめや）」は大規
模な改修がされていますが、
建物の構造は江戸時代後期
のものとして推定されています。
間口の広さや大屋根を持つ
棟高など規模の大きさから、
地域のシンボリックな建造物
です。



町家の顔 十軒十色



旧旅籠の「つる屋」は、
建て替えられましたが、
旧東海道に面した板塀
にはつる屋の時代の建
材が使われるなど、旧
旅籠の記憶を現代に伝
えています。



建て替え前



旧旅籠「つる屋」
斎郷家住宅

新たなデザインで
継承された町家の記憶



社寺

今も地域の見守り役

歴史を重ねてきた社寺の空間は、大きな改変が少ない場所であることが多く、藤川固有の歴史文化を伝えるとともに、現代のくらしとも密接につながっています。

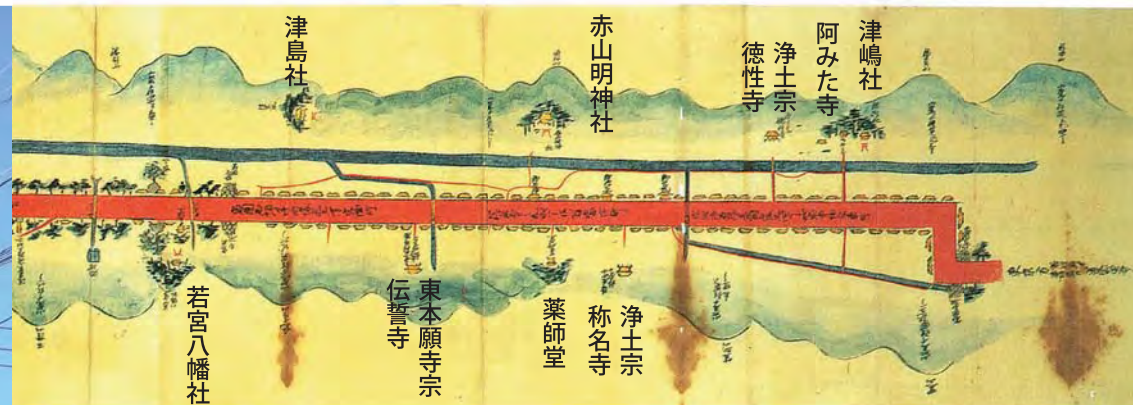
「藤川七寺のわらべ歌」は、古くから地域で歌い継がれてきた歌です。

藤川の社寺には、「元康（徳川家康公）と片目不動」や相撲とり「江戸ヶ崎」の墓など数多くの物語が語り継がれています。

地域の文化を物語る場所

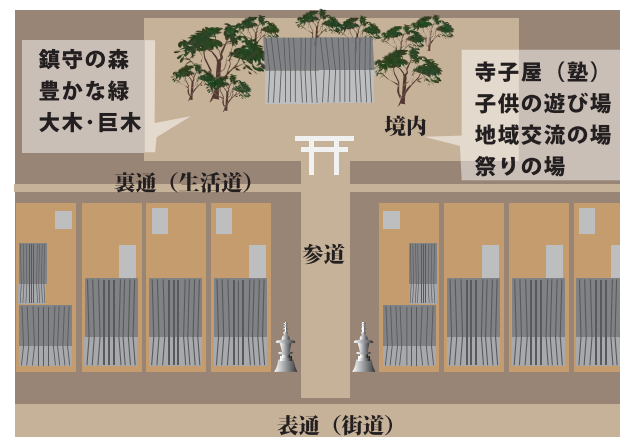
- 1 十王坊主の鐘たたき
- 2 あかぎれきらしの伝誓寺
- 3 食ってやせるは称名寺
- 4 食わんで肥えるは徳性寺
- 5 網にかかった阿弥陀寺
- 6 頭にまんじゅう法印坊
- 7 もどって薬師のはげ頭

藤川七寺のわらべ歌



東海道往還絵図 明治初年

自然・歴史・くらしをつなぐ空間



現在も祭りや子供の遊び場など、境内は地域コミュニティの場として活用され続けています。街路樹や公園の少ない旧東海道沿いでは、「鎮守の森」など貴重なまちなかの緑を提供する社寺は、現代の公園のような役割も担っています。

信仰の場であることはもちろんのこと、社寺の境内は、街道で大名行列が鉢合わせしそうなとき、一方が退避場所として利用したともいわれ、道幅が狭く道際まで家が建ち並んでいた街道沿いでは、貴重な空間でした。



※次ページ地図に各社寺の位置を示しています

今と昔をつなぐ社寺景観

ハレとケ

非日常と日常



1 傘鉾まつり 昭和 27 年



地域や世代が団結し、賑わう祭りのときには、いつもの見慣れたまちの景観も華やぎます。

歴史を重ねる樹木



十王堂のケヤキ・タブノキなど、歴史を重ねた樹木は、まちのシンボルとなります。

変わらない建造物



2 昭和 20 年頃 徳性寺付近



周囲の景観は変わりましたが、徳性寺の建物と背景となる山は昔と変わらず、今と昔をつないでいます。

変わった建造物



3 昭和 12 年



十王堂は修理によって屋根の形が変わりましたが、今も地域で大切に維持管理されています。

街道（みち）

境界

宿場（まち）

境界 街道（みち）



あそ ば 遊び場

心の原風景

子どもの頃に遊んだ場所は、大人になっても親しみと愛着のある場所です。そんな想いを世代を超えて分かちあえる空間があることはとても素敵なことです。

親しみと愛着



散歩するとき、買い物に行くとき、学校の帰り道…意識することは少ないですが、わたしたちは毎日まちの景観を目にしています。

まちにくらす人それぞれが思い浮かべる遊び場や大切な場所は、年代別に見ると藤川が50年間ほどで変わったところや変わらないところ、次世代に伝えたいところを映し出しているようです。

養川地域の小学生世代

藤川地域の小学生世代

父母世代

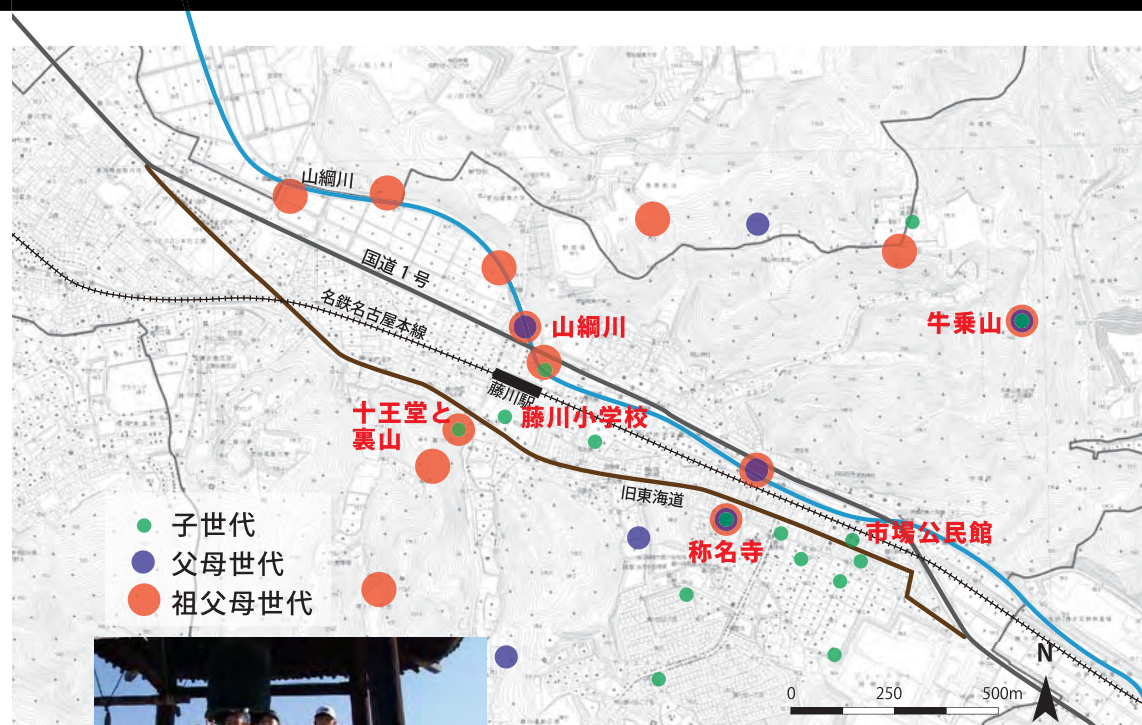
祖父母世代

1位	友達の家	市場公民館	牛乗山	牛乗山
2位	峠公園	牛乗山	山綱川	称名寺の境内
3位	藤川小学校	松尾神社	藤川小学校校庭	十王堂の境内



1位	自宅	自分の家	松並木	問屋場
2位	藤川小学校	藤川全部	関山神社	本陣・脇本陣
3位	裏山	藤川小学校	山綱川	十王堂

※藤川いいとこ探検隊 Mission1 (37ページ参照) の結果



分 か ち あ う 想 い を

上の図は藤川の三世代別の遊び場の分布です。藤川では、山綱川や周囲の裏山、田畑などの空き地、旧東海道沿いの社寺の境内、小学校が主な遊び場となっています。

「遊び場」は世代を超えて愛され、親しまれる最も身近な景観のひとつです。

世代	場所	遊び方
子	小学校	球技
	公園	鬼ごっこ
	境内 空き地	魚捕り ゲーム
父母	境内	かくれんぼ
	山綱川	虫捕り
	裏山・小川	缶けり
祖父母	山綱川	生き物捕り
	境内	キノコ採り
	裏山	かくれんぼ 陣取り

